

## 信用できる専門家を見つけるには

2011年3月の福島第一原子力発電所の事故で放射性物質が環境に放出された際、「心配は不要」「国が定めた区域外でも外国の基準なら避難勧告が出る水準」と専門家の見解がまとまらず、何を信用すべきか人々は迷いました。こういう時に信用できる人を定める方法があります。専門情報をどこで教わったのから尋ね、大元の研究を行った人への感謝がある人はだいたい信用できます。放射線がどれほど人体に有害かは広島長崎の原爆投下で放射線を浴びた人達の健康被害の調査をして確定したものです。放射線が危険なレベルか、微弱で無害か人類が判定できるようになるのに大きな犠牲があったことを重く受け止めている専門家は信用できると考えられます。「原子爆弾と原子力発電は全然違う」と強弁するばかりで自分と意見を異にする人を蔑む専門家は信用しない方が良いでしょう。

品質の高いプログラムを書く技術者は常に必要とされますが、ソフトウェア製品の安全性や経済性について専門でない一般人が判断を求める場面も増えています。ここでも誰を信用すべきかが問題となります。ソースコードが開示されているソフトウェアなら実際にコードを検証する能力に長けている人が尊重されて当然です。ソースコードを読み込んでいる人は先人の工夫や苦勞のあとを自分の目で観察しているものです。収益機会を犠牲にして労作の技術情報を公開してくれた原作者に対して敬意と感謝がある技術者は信用できると言えます。

フリーソフトウェア財団の創設者リチャード・ストールマン博士が財団の会長、理事から退任を表明しました。ストールマン博士はコンパイラを始めOSの基幹部品の製作を手がけた上で技術者がどう協力すべきかの思想を提唱した人です。一方で彼には天才にありがちな頑固な言説がしばしば見られました。その中でオープンソースソフトウェアの支持者にとって最も重要なのが「オープンソース」という言葉への徹底的な反対です。彼は自分の主張を free software（自由ソフトウェア）と呼んでいました。1998年に free は「無料」と誤解されるので新たな呼び名を使おうという動きが起き、open source（オープンソース）という新呼称が提唱されます。これを彼は「自由が一番大切なのに反映されていない」として拒絶します。これは「オープンソース」を推奨する人達にとって困った事態です。一部の著書や記事では面倒な解説を端折ったからか、調査不足からかストールマン博士を「オープンソースの父祖」としています。同時にオープンソースに対して反意を唱える彼の著述になるべく触れない（リンクしない）慣習があり、反対している事実を知らない人も多いようです。これにより、事情を知らない人が「ストールマン博士、あなたはオープンソースの提唱者ですね。お会い出来て光栄です」と挨拶すると「自分はオープンソースとは関係無い、オープンソースには絶対反対だ」とえらい剣幕で叱られて、大変不快な思いをする人が続出しています。

さて今回のストールマン博士の退任は、MITのメイリングリストで不適切な言動があったのが発端とされています。彼が長年言葉と行動で女性の研究者の矚感を買っていて、女性が動いたのが契機でやっと退いてくれたという報道が目立ちます。ストールマン博士への批判は種々聞いていますが、女性蔑視や差別はこれまで耳にしたことがありません。有益な技術情報は公開共有しようとの呼びかけには利他博愛の精神が見られますが、最近の報道はその主唱者を利己心から弱者を苦しめる人として紹介しています。真実はどこにあるのでしょうか。判断は皆様に委ねますが、オープンソースを支持する人ならば一次情報を自分の目で見て確かめることを重視し、当事者の発言をまず読むべきだと思います。ストールマン博士のソフトウェア開発についての思想の文章はGNUプロジェクトのサイト

<http://www.gnu.org/>（和訳あり）政治や人権環境などの問題の論評は個人サイト  
<http://www.stallman.org/>（英文のみ）にあります。海外の報道を伝える記事が日本でも出て  
いますが、上記を読み込んだ上で論評している論者なら信用できるでしょう。

情報技術が進歩して世の中は情報があふれるようになっています。何を信じて良いのか迷  
う人が増えています。真実は単純明解とは限りません。複雑な事象を専門家が一般人に解  
説をする場面はこれからも増えていくでしょう。ソフトウェアを道具として利用する時の  
姿勢と同じですが、手頃な物をただ利用するだけでなく、確認や検証を行うべきだと思  
います。そして苦勞を伴う部分を負うてくれた人の事を常に考えるべきだと思います。

2019年9月 漆畑晶

参考・講演資料 「論語とコンピュータ」

[https://www.ospn.jp/osc2018-nagoya/pdf/OSC2018\\_Nagoya\\_netpbm%202.pdf](https://www.ospn.jp/osc2018-nagoya/pdf/OSC2018_Nagoya_netpbm%202.pdf)